

(1) 施策の目的、内容

5. で掲げた本市の観光に係る理念を実現するために、以下の5つの施策を実施します。

各施策の目的と内容は、以下のとおりです。各施策の具体的な事業イメージ・アイディアについては、策定委員会及びワーキンググループ各委員から出た事業（案）を併せて掲載します。

図表 施策の体系

施策1. インナーブランディングの推進

- 1 教材の作成、既存制作物の有効活用
- 2 知る、体験する、発見する機会の提供
- 3 案内・発信する仕組みの構築

施策2. テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供

- 1 広域的な視点での魅力創出
- 2 自然、歴史・文化、食等の有効活用
- 3 滞在環境の整備

施策3. プラットフォームの形成

- 1 関係者の情報交換・交流の促進
- 2 外部事業者・人材、友好都市との交流の促進
- 3 観光推進体制・組織の強化

施策4. サステナブルな仕組みの構築

- 1 多様な移動手段の提供
- 2 地域資源・環境の保全
- 3 観光動態の観測、財源の確保

施策5. コミュニケーション・デザインの強化

- 1 ガイダンス機能の確保、強化
- 2 情報媒体の整備、多様な発信手段の活用



観光客とガイドの交流



ふるさと学習

6

施策1. インナーブランディングの推進

豊かな自然環境や歴史・文化、先人たちの日々の暮らしの中で培われた精神が息づく環境の中で過ごす市民の豊かな暮らしは、本市の観光資源そのものであり、本市における観光資源の磨き上げとは、市民の暮らしの更なる充実を意味します。

ふるさとである本市に対して市民や観光に関する事業者が愛着と誇りを持てる未来とするためには、更に豊かな暮らしができる場所とするためのまちづくりを、将来にわたって持続させていくことが必要です。そして、まちづくりに関わり共感してもらえる市民や観光に関する事業者を育てていくことが極めて重要です。

市民や観光に関する事業者がまちの魅力を知り、心から本市のことが大好きだと思える郷土愛を育むことで、市民の日々の暮らしや営み、目の輝き、所作等に反映され、結果的に本市の観光都市としてのブランド力はより強固なものになっていくと考えます。

本市では、観光をより豊かな市民生活の実現にも結び付つけていくために「インナーブランディング」が最も重要との認識のもと、施策の1つ目に掲げます。本市の魅力を伝える教材づくりや、市民自身がその魅力を体験する機会を提供します。さらに市民自身がその魅力を発信できるよう仕組みづくりも行います。

【用語】

インナーブランディング (Inner branding) …ビジネスの現場において会社、企業を想定して使用される用語。地域を想定すると、外から訪れる観光客等に対してではなく、地域住民に対して行うブランディングのこと。理念やビジョン、ブランド価値を地域内に伝えて浸透させることを目的に実施。

- 1 教材の作成、既存制作物の有効活用
- 2 知る、体験する、発見する機会の提供
- 3 案内・発信する仕組みの構築

■具体的な事業イメージ・アイディア

1 教材の作成、既存制作物の有効活用

①まちの自然、歴史・文化等に関する教材作成等【事業案】

- ◇広報おうみはちまん「ふるさと再発見」の集約版作成
- ◇近江八幡のまちづくり読本の作成
- ◇「八幡商人に関するドキュメンタリー」等の上映
- ◇VR安土城の上映
- ◇「あづちふるさとばなし」の発信・活用
- ◇民間企業の情報媒体の発信・活用（例：「La collina」）
- ◇郷土料理に関する冊子の作成

②観光に関する教材作成等【事業案】

- ◇観光の意義、効果等に関する冊子等の作成

③情報源となるデータの集約整理【事業案】

- ◇地域資源等に関する調査の実施（例：安土地域の寺社の歴史・軒数等）
- ◇まちづくり活動、本市に関連する資料等のデータベース・公開場所の作成

■具体的な事業イメージ・アイデア

2 知る、体験する、発見する機会の提供

①子どもの教育機関等と連携【事業案】

- ◇ふるさと学習との連携（先生向けに出前授業対応者リスト等の作成）
- ◇学校の課外授業マップづくり
- ◇給食での郷土料理の提供
- ◇観光業を含む職業体験機会の提供

②市民が体験する仕組みの、仕掛け構築【事業案】

- ◇既存の提供プログラムの有効活用
 - * 市民、地元住民向けのプログラムに関する情報集約・発信
 - * 無料の体験あり（安土地域での歩きツアー）
 - * ふるさと観光塾の開催
- ◇むかしばなしを聞く会
- ◇気軽に学べるセミナー（信長についてのセミナー）
- ◇無料、割引の仕組みの検討（恒常的なもの）
 - * 水郷めぐり、ボランティアガイド、市内宿泊など
- ◇市民が体験する観光DAY・市民観光週間の設定
- ◇観光客と地元住民が交流する場づくり
- ◇市民からのアイデア公募（メニューの発掘等）
- ◇伝統野菜の復活

③転入者向けの観光物産情報、体験する仕組み【事業案】

- ◇転入時における観光物産情報の提供、体験機会の提供（クーポン提供）

■具体的な事業イメージ・アイデア

3 案内・発信する仕組みの構築

①市民観光ガイド制度の構築【事業案】

- ◇市民の家族・親戚、友人・知人、お客様に地域を案内する仕組みの構築
- ◇ふるさと検定と連動した仕組みづくり（上位入賞者にゴールドカード）
- ◇子どもガイド（ふるさと学習の成果物を活用）
- ◇市民ガイドへのフラッグの提供
（自宅周辺を案内できる時間帯に自宅前に掲出）

②市民リポーターの拡充【事業案】

- ◇地元住民・市民によるおすすめ情報の発信 参考：赤こんリポーター

6

施策 2. テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供

日本のほぼ中央に位置し琵琶湖を有する滋賀県東近江地域は、日本のへそといわれ、本市は、多くの歴史的遺産や伝承、日本遺産及び日本最古の巡礼道西国三十三所巡礼の聖地である観音霊場の二霊場を有しています。

八幡商人は、この地を本拠地とし、国内外で行商する中で、無形の資産である商いの精神を育みました。

また、本市は、歴史的遺産だけでなく、水及び土も豊かで長年受け継がれてきた伝統野菜や伝統的な行事などの多くが今日まで受け継がれてきています。

本市や隣接する東近江地域、県内外の地域の関係者と連携し、テーマを明確にした動脈的な観光ストーリーである物語を創り提供します。さらに、様々なテーマ・ストーリーを創り、体験できるカタチに落とし込むことを通じて、新規観光客の獲得や滞在時間の拡大、リピーターの再来訪を促します。このような取組は、市民が本市の魅力をより一層知ることにもつながります。

以上のような認識のもと、テーマ・ストーリー性の高い体験価値を提供するために、広域的な視点で本市の魅力を創出するとともに、本市の豊かな自然、歴史・文化、食等を体験・体感する機会をつくり、その魅力を味わうための滞在環境の整備等も行います。

- 1 広域的な視点での魅力創出
- 2 自然、歴史・文化、食等の有効活用
- 3 滞在環境の整備

■具体的な事業イメージ・アイディア

1 広域的な視点での魅力創出

①本市のイメージ形成【事業案】

◇各時代の自然、歴史・文化が重層する都市イメージの形成

＊1000年以上の歴史と各時代の遺産を有する都市
(古代、戦国、江戸、明治・大正、戦後)

＊旧安土町は、限られた地域に古代から近世に至るまで国指定の史跡が5か所存在(大中の湖南遺跡、瓢箪山古墳、老蘇の森、観音寺城跡、安土城跡)
歴史の面では稀有な地域

②ストーリー性のある体験の創出【事業案】

◇西の湖と2つの城下町の有効活用

◇2つの巡礼の路(日本遺産)の有効活用

＊一つの市に西国三十三ヶ所札所が2つ

◇インバウンドを意識した日本遺産等の活用

■具体的な事業イメージ・アイデア

2 自然、歴史・文化、食等の有効活用

①自然、歴史・文化に関する体験・交流の促進【事業案】

- ◇八幡商人の精神伝承（八幡商人塾）
- ◇寺社ツアー
- ◇ヨシ製品のワークショップ（ヨシ刈り体験、ヨシ笛づくり等）
- ◇ヴォーリズ建築のガイドツアー
- ◇西の湖ヨシ灯り展
- ◇霞を始め、近江八幡の古い建物や産業について学んでいただく機会
- ◇西の湖和舟と食の提案
- ◇寺社、観光施設、伴家住宅とのつながりづくり
- ◇里山風景の体験（山並みを背景にした田んぼやヨシ原の風景の活用）
- ◇モデル商家や農家の募集、特別の体験メニューの提供
- ◇伝統的な行催事への参加体験

②食・産品に関する体験・交流の促進【事業案】

- ◇食や特産品のストーリーの見える化（近江牛、数珠、伝統野菜、湖魚など）
- ◇生産者との交流
（地元農家とお話会と食事ツアー、ファームツアー、ローカル製品ツアー）
- ◇鮎ずし作りのイベント
- ◇菓子製造体験ツアー（丁稚羊羹づくり等）
- ◇食品生産者のコラボ商品づくり
（羊羹＋新たな素材（チョコレートやナッツ））
- ◇大規模なマルシェ（市）
- ◇新しい商店街のたちあげ（八幡堀界限）や受け皿の検討（安土地域）

③新たな観光・旅行への対応、プログラム・イベント・サービスの創出【事業案】

- ◇ワーケーション
- ◇マイクロツーリズム
- ◇三方よしの地元旅
- ◇サイクリング（ビワイチ及びビワイチプラスと連携した取組）

■具体的な事業イメージ・アイデア

3 滞在環境の整備

①居心地の良い空間の整備【事業案】

- ◇ただずむことができる環境整備（ベンチや木立、木陰とトイレ等休憩所）

②滞在施設の整備【事業案】

- ◇暮らすように滞在できる古民家やゲストハウス
- ◇琵琶湖の魚食を学べるコミュニティキッチン
- ◇ユニバーサルデザイン
- ◇琵琶湖岸での自然を活かした体験、地元湖魚や野菜、近江牛などの素材を活かした食を一体で楽しめる施設

6

施策 3. プラットフォームの形成

有形及び無形の資産で構成される本市の総体的な魅力を、価値ある情報や体験・サービスとして提供するためには、市民や観光客の一連の行動に関わる多様な主体や関係事業者の連携は不可欠です。

関係者同士が情報交換や意見交換、交流を行い、相互理解を深めること、一緒になって学び刺激し合い成長することが重要です。また、全体をプロデュースする視点、事業者の強みや弱み、特性を理解してマッチングを進めることなどが重要です。

本市で観光を基軸とした様々なプラットフォームを形成し、関係者の情報交換・交流の促進や外部事業者・人材、友好都市との交流の促進を図るとともに、観光振興に関わる人材確保や組織の強化も行います。

- 1 関係者の情報交換・交流の促進
- 2 外部事業者・人材、友好都市との交流の促進
- 3 観光推進体制・組織の強化

■ 具体的な事業イメージ・アイデア

1 関係者の情報交換・交流の促進【事業案】

- ◇観光事業者間の交流（意見交換・アイデア出し、勉強会など）
- ◇自身の取組を発表する場（例：「安土経済人塾」）
- ◇ふるさと観光塾の平日・夜間開催（観光事業者参加できるように）
- ◇企業同士による相互発信

■ 具体的な事業イメージ・アイデア

2 外部事業者・人材、友好都市との交流の促進【事業案】

- ◇DMO等によるマッチング（の場の設置）
- ◇夫婦都市や姉妹都市等との連携

■ 具体的な事業イメージ・アイデア

3 観光推進体制・組織の強化【事業案】

- ◇観光政策・観光振興を学ぶセミナーの開催
- ◇観光推進組織の強化、人材確保等の検討

施策4. サステナブルな仕組みの構築

本市の観光は、先人から現在に至るまで継承してきた人々の暮らしや生き様、まちづくりなど、生活文化や環境などがあって初めて成立するものです。

本市にとって「観光はまちづくりそのもの」であり、八幡商人の言葉「吾、即ち先祖の手代なり」の精神を大切に、預かりものである地域の資産や環境を活用しながら次世代に引き継ぐことが求められます。こうした価値観は、SDGsに代表される新たな潮流において、より尊重し大切にすべき本市の無形資産です。

観光が市民のより心豊かな生活の実現に資するよう、地域資源・環境の保全を図る仕組みを構築するとともに、交通渋滞等の地域住民の生活環境への正負の影響を見極め、正の影響は高め、負の影響は低減する対策を講じます。

1 多様な移動手段の提供 2 地域資源・環境の保全 3 観光動態の観測、財源の確保

■具体的な事業イメージ・アイデア

1 多様な移動手段の提供

①生活環境への負のインパクト軽減【事業案】

- ◇交通渋滞対策
- ◇観光客に対するマナー、ルールの周知等

②多様な移動手段の提供【事業案】

- ◇歩きやすい道、自転車で走りやすい道の点検（ベビーカーや車椅子での散策）
- ◇最適な交通手段の提供
（自転車、電動キックボードシェア、観光ピストンバス等）と拠点の整備
- ◇観光のハブとなる駐車場等の整備及び有効活用
（駐車場利用者に対するお店の割引などサービスの提供等を含む）
- ◇レンタサイクル運営検討

■具体的な事業イメージ・アイデア

2 地域資源・環境の保全【事業案】

- ◇ヨシ原の保全・利用プログラム
- ◇西の湖、八幡堀の環境改善（水質環境）と環境学習への支援
- ◇伝統産業の保全プログラム（淡水真珠等）
- ◇サステナブルツーリズム（改修した町家の活用）
- ◇子どもへの観光・環境教育、市民による文化継承の取組

■具体的な事業イメージ・アイデア

3 観光動態の観測、財源の確保【事業案】

- ◇観光情報・動態データの公開
- ◇持続可能な観光指標等の導入の検討
- ◇観光事業等に掛かる財源の調査、検討

施策5. コミュニケーション・デザインの強化

本市の有形及び無形の資産から成る地域の魅力及び価値を適切に伝え、その価値を更に高めるためには、市民及び観光客の双方向のコミュニケーションや交流が極めて重要であり、そのための情報発信が重要です。また、観光客の動線や過ごし方を考慮した、場面に応じた情報提供が大切です。

発信する情報そのものの質を向上させ交流を促すことを目的に、ガイダンス機能の確保及び情報媒体の整備を図るとともに、全ての人に訴求できるデザインの強化を図りながら、多様な情報手段を活用して本市の魅力を発信します。

【用語】

ガイダンス…guidance。不慣れでわからない人に対して、初歩的な説明・案内をすること。

1 ガイダンス機能の確保、強化

2 情報媒体の整備、多様な発信手段の活用

■ 具体的な事業イメージ・アイディア

1 ガイダンス機能の確保、強化【事業案】

- ◇観光案内拠点施設等の整備（白雲館、図書館等の有効活用）
- ◇交通機関と連携した情報発信（降車場所、車内等）
 - *旧市街まち歩きマップの掲示
- ◇観光物産協会によるスタンプラリー

■ 具体的な事業イメージ・アイディア

2 情報媒体の整備、多様な発信手段の活用【事業案】

- ◇情報媒体の見直し、新規作成
 - *宿泊、食事、買い物、交通などの情報の統合
 - *季節ごと・旬の情報発信
 - *デザインの導入
- ◇看板等の整備、更新
- ◇多様な情報チャネルの有効活用（SNS等）
- ◇DX（デジタルトランスフォーメーション）
- ◇インフルエンサーとの連携

(2) プロジェクトの具体イメージ

本計画の策定委員会と並行して開催されたワーキンググループでは、計3回の会議やワークショップを経て、委員自らが「取り組みたい」又は「すぐにでも取り組める」とした以下の4つのプロジェクトが提案されました。これらは施策1～5の複数の内容に関わる横断的なプロジェクトとなっています。

プロジェクトの具体イメージ：豊浦ねぎ復活プロジェクト

実施内容	： (持続的なしくみ) ・収穫までのプロセス ・食す ・後継者の育成（西の湖に関心のある人）	} パッケージ化プログラム
将来的な姿	： 地場産品の一つとして市民が認識	
実施主体・メンバー	： 語り部（ふるさとばなし）、地域おこし協力隊、プログラム参加者	
実施に要する期間	： 中長期	
スケジュール	： 9年	
活動の場所	： 安土学区 ⇒ 安土地域 ⇒ 本市全体	
関連する施策	： 施策1、施策2、施策4	

プロジェクトの具体イメージ：事業者向け大人の社会見学（体験会）

実施内容	： 互いの店、職場を見学。説明を聞く。自分達が楽しんで魅力を知る。
将来的な姿	： 連携事業。欧米向けサステナブルツアー
実施主体・メンバー	： ワーキンググループメンバーから
実施に要する期間	： 短期
スケジュール	： 令和5（2023）年
活動の場所	： 各店舗 事業所など
関連する施策	： 施策2、施策3

プロジェクトの具体イメージ：オンライン掲示板

実施内容	： 事業者とのコラボのきっかけづくり、#（ハッシュタグ）の活用 →YouTube、Instagram 等
将来的な姿	： 農業従事者、寺社、おやじ連等とのコラボ
実施主体・メンバー	： ワーキンググループメンバーから
実施に要する期間	： 短期
スケジュール	： 令和5（2023）年
活動の場所	： オンライン→オフライン
関連する施策	： 施策3、施策5

プロジェクトの具体イメージ：観光施設活用プロジェクト

実施内容	： 観光施設の機能を見直し、有効活用する。 例：白雲館→元学校としての性格を活かして施設全体として活用 対象：ちょっと学びたい人 機能：1階 現在の利用 2階 資料配置、講座・プログラムの実施 その他、支所、図書館、コミュニティセンター、楽市楽座館等
将来的な姿	： まちの拠点がネットワークされ、 市民と観光客、双方が利用する拠点となっている。
実施主体・メンバー	： ワーキンググループメンバー、拠点施設メンバー
実施に要する期間	： 中長期
スケジュール	： 令和5（2023）年～
活動の場所	： 拠点施設
関連する施策	： 施策2、施策4、施策5